

1. 日時：平成23年7月27日（水）午後1時30分～3時
2. 場所：大阪市立中央図書館 5階 中会議室
3. 出席者：別紙「平成23年度One Book One OSAKA 事業運営委員」参照
4. 会議内容

- ・ 中央図書館長挨拶

運営委員は4分の3が継続、あとは新規の方、子ども運営委員も参加。各区の図書館を拠点に活動されている市民ボランティアの協力を得ながら、読書への関心・意欲をよりいっそう高めるため、市民の皆様の投票により「大阪市の1冊の絵本」を決定する事業である「One Book One OSAKA事業」は、一昨年より実施。「国民読書年」である昨年は、第2回One Bookの投票に13,012票（第1回の1.5倍）もの応募をいただき、関連イベントも66回開催。3年目を迎えた今年度についても既に募集を開始し、小学校、区役所、子育て支援施設などに呼びかけを行い取り組んでいるところ。運営委員会でのご意見を反映し展開してまいる所存である。

- ・ 委員紹介

- ・ 議事

- (1) 「大阪市One Book One OSAKA 事業実施要綱」について

（別紙「大阪市One Book One OSAKA 事業実施要綱」参照）

実施要綱第3条第3項(3)に則り、運営委員の互選により運営委員長・副運営委員長を以下のとおり定める。

運営委員長……渡邊 裕美子氏（東淀川区）…前々年度から継続

副運営委員長…上田 道代氏（浪速区）……前々年度から継続

- (2) 「大阪市One Book One OSAKA 事業」について

- ・平成21～23年度のこれまでの経過

- 4/5 教育長報告会

- 4/23 One Book 2011 発表会、

- 5/12 実施プレス ポスター・チラシ配布開始 広報開始（市政だより・いちよう並木・）

- 5/13 第3回投票受付開始

- (3) 今後の事業・関連イベントについて

- ・世代間交流事業の計画

- ・子ども運営委員会・夏休み活動

- ・秋のOne Book 関連イベント企画について

平成23年度主なスケジュール【予定】

5月 投票開始

各区でOne Book 関連イベント開始 → 3月末まで実施。

子育て支援施設、小学校等投票用紙配布

7月 第1回One Book One OSAKA 事業運営委員会

8月 子ども運営委員会・図書館体験

9・10月 関連イベント準備

11月 One Book 関連イベント（中央図書館）投票促進月間

12月 企画PR部会 投票しめきり

1・2月 開票作業 第3期子ども運営委員公募

3月 子ども運営委員会、第2回運営委員会

(4月 One Book 発表会)

#### (4) 各運営委員からのご意見・ご感想

##### 【投票促進】

- ・ 図書館では催しものをする際に、OneBookになった『ぐりとぐら』や『はらぺこあおむし』を必ず置いている。ボランティアグループの他のメンバーにも本事業の宣伝をしてもらうよう伝えており、投票促進に結びつくようにしていきたい。
- ・ 図書館で開催する毎週土曜日のおはなし会等で参加スタンプを押し、たまったら景品として、ボランティアで作成した『ぐりとぐら』のブローチをプレゼントするなど投票促進に向けた楽しい取り組みを企画したい。
- ・ 投票用紙を見た子どもが「去年のOneBookは『はらぺこあおむし』だったね」と言ってくれた。関心がある子も増えてきているように感じる。
- ・ おはなし会などで関わる子どもやお母さん方に投票用紙を持っていき、交流しながら書いてもらうのも楽しい。
- ・ この事業は知っている人は知っているが知らない人は知らないという印象。『ぐりとぐら』や『はらぺこあおむし』を読み、その絵本自体は楽しんでくれるが、それとOne Bookがつながっていると感じられない時もあるので、小学校や子育て支援施設などへ絵本の読み聞かせで出向くときなど、ことあるごとに宣伝したい。
- ・ 子ども・子育てプラザなどに出向き、ボランティアとして絵本の読み聞かせをしている。そこで出会う幼児の保護者には、絵本をどのように読んだらよいのか悩んでおられる方もいる。保護者とコミュニケーションをとりながら、好きな本を聞き取り、投票用紙に書いている。お母さん同士が誘い合って関心を持ってくれると嬉しいので続けている。
- ・ 小学校でもボランティア活動をしているが、小学校にも図書室の片隅に投票用紙が置かれてある。児童の各家庭にも配られている。ただ、小学校の高学年は配布されても書いてみようということに繋がるか疑問。小学校の先生方に興味を持ってもらうことが肝要。
- ・ 学校での投票促進については、校長先生が本事業に関心を持ってくださるかどうかが大きい。「One Book One OSAKA TOP100」のリストを校長先生にお渡ししたところ、職員会議で紹介して下さった。
- ・ One Book 関連展示として、今までの投票用紙の力作や絵本を展示している。それを見ていた親子が、そのあと自らも書いて投票箱に入れている光景を見た。投票用紙展示が投票促進につながることや、本事業を楽しみにしている親子の存在を感じた。

##### 【One Book 関連イベントについて】

- ・ 震災で大変な時にも子どもが絵本に集まって笑顔になるのを見た。どこにいても子どもにとって絵本はオアシスなのだと思う。子どもが絵本により笑顔になるお手伝いのできる企画ができたらと思う。
- ・ 各区で関連されるイベントに参加の子どもへのおみやげとして、事務局企画の「なにワンおりがみ」や「自動車文庫クラフト」があれば、喜ばれると同時に本事業のPRになると思う。
- ・ 7月に関連イベントを開催し、『ぐりとぐら』の大型絵本を音楽を入れながら読んだところ、歌のところで子どもたちが皆で歌ってくれた。根強い人気の絵本『ぐりとぐら』がOne Bookに選ばれて、イベントも盛り上がる。
- ・ 『ぐりとぐら』は歌を歌う箇所があるが、読み手によって節が違う。それぞれの節を紹介できたら楽しい催しにもなると思う。(※『ぼくらのなまえはぐりとぐら』(書誌 0010169486) 100以上の節の楽譜が掲載、付属CDもあり。)

- ・ 保育所の食育担当者が、先日、ぐりとぐらのカステラづくりの講師として招かれた。絵本から広がった催し、これが One Book One OSAKA 事業から企画された催し、関連イベントのひとつなのかと思い、運営委員として嬉しく思った。
- ・ 中央で 11 月に行う『ぐりとぐら』の衣装を着られるコーナー企画は面白いアイデアだと思う。かわいい『ぐりとぐら』衣装を各図書館で順番に展示して宣伝してもよいのでは。地域館でそれを見た子どもや保護者の方が「行きたい！」という気持ちになるかも。
- ・ 『ぐりとぐら』衣装は、一昨年、地域の子育てフェスティバルにて図書館として絵本展を行った際にも借りたことがある。会場の壁に花を貼るなど雰囲気のある背景をしつらえて、そこで写真撮影もされていた。行列整理が必要だったほどの盛況ぶり、本当はもっと絵本の読み聞かせもしたかったのだが。
- ・ 盛り上がりを重視するあまり、イベントに流れてしまうけれど、もう少し絵本を紹介したかったと思うことがある。ボランティアとしては、子ども達には絵本を楽しんだ気持ちもイベントの楽しさもそれぞれどちらも持って帰ってほしいと願っている。
- ・ 第 1 回 One Book の『はらぺこあおむし』は殿堂入りとのことだが、昨年度作成した巨大絵本は素晴らしいので、今年度のイベントの際にも活用したらよいと思う。昨年度のイベントで、一番小さい『はらぺこあおむし』絵本を見せて、だんだんに大きい絵本を、最後に巨大絵本を登場させると、皆びっくりして大喜びしていた。
- ・ 巨大絵本は大きすぎて催し会場に運べなかったもので、段ボール製ハウス(子ども1人入れる程度の大きさで大きな窓付き)を借りて、「あかちゃんのひろば」で使用した。幼児はかくれたりもぐったりすることが大好きなようで、非常に人気があった。今年も借りようかと考えている。
- ・ 昨年度は区役所と共催で、君島久子先生の講演会開催と同時に、One Book 関連イベントを行った。ボランティアグループのメンバーにもいろんな催しで本事業の PR のための声かけをしてもらおうよう伝えている。
- ・ One Book 関連イベントとして、世代間交流事業も実施している。老人福祉センターや憩いの家などに出向いて絵本講座を実施、興味を持った方が図書館でのボランティア活動につながることも…。地域の組織と子どもを読書でつなぐ仕組みをつくることも本事業のコンセプトの一つ、地域社協との連携のきっかけになったのではと考えている。(事務局)

## 【今後の事業について】

事務局より: 本事業開始時より、投票は平成 23 年度の第3回までとし、24 年度は第 3 回 One Book やランキング上位の絵本の関連イベントを行う、という計画での予算組みをしている。運営委員会は 24 年度も開催し、今後の在り方について検討予定。本事業を継続するならば、どのように展開していくか(例えば大阪の絵本に絞るとか、物語に絞るとか、あるいは、年度ごとに投票と関連イベントを交互に行う・・・など。)、検証も含めた検討が必要。

- ・ 得票数も増え、じわじわ浸透してきているので、この事業がここで終わるのは惜しい。今までの経過を知っているので、予算が厳しいということもあると思うが、隔年でもいいので続けていきたい。何らかの形で残していきたい。
- ・ 本事業の投票が、3回で終わる予定とのことだが、徐々に浸透し定着しているのなら、どうにか継続の道を模索し、関連イベントを開催しつつ、絵本が子どもたちの手元にある環境を支えていきたいと思う。
- ・ 1年目はポスターの貼り方、投票用紙の置き方など試行錯誤した。初めのうちはなかなか浸透するのが大変だったが、今年は、5 月よりポスターが地域館に貼ってあるなどスムーズに始まっていたので、さすが 3 年目だと感じている。たくさんの投票数も見込めそうで嬉しい。だんだん子どもたちにも浸透

してきたところなので、全ておしまいというのは寂しい。

- ・ 『はらぺこあおむし』でも『ぐりとぐら』でも、関連イベント自体の人气が高く、イベントから読書につなげていくのは楽しい取り組みとなる。イベントと投票を交互の年に行うという意見には賛成。
- ・ ボランティアとして、絵本の読みきかせに行っている保育園では、園長がとても One Book を楽しみにしておられて、おかあさんに書いてもらう時間を設けてくれたりしているので、このまま終わるのは忍びない。
- ・ こういう事業は継続することが大事だと思う。エネルギーは必要だが、せつかく土台が出来たと思うのでやめるよりも何らかの形で継続していける方向性を見出していけたらと思う。
- ・ 「One Book One OSAKA TOP 100」のリストで、子どもたちに選ばれた本を見ると、大人が思う良い本と子どもが思う良い本とは全然違う。読みきかせを行う際に、このリストを参考に選ぶのは大切なことだと感じる。One Book 事業は隔年でも継続して欲しい。
- ・ 朝読の時間に小学校にボランティアとして読み聞かせに行っているが、昨年度までは本事業を知らない児童は多かった。今年はさすがに知られていた。このまま終わらせるのは勿体ないと思う。
- ・ 図書館が選んだ One Book の絵本候補リストから One Book を選ぶという方式にすれば、煩瑣な開票作業の軽減にもつながり、継続の道も見えてくるのでは？
- ・ 継続するにしても、本事業の本来の目的、投票で One Book を選ぶその過程で、子どもの読書への意欲・関心を深め、おとなにも絵本を楽しみに触れてもらうことという目的に対し、効果があったのかどうか、効果検証、成果指標を示すことも必要。
- ・ 継続には財源が必要、実績を残して検証し、企業や団体から、元気が出てつながりが生まれる事業として応援していただくなど、財源の別途確保についても検討すべきでは？

## 【 その他 】

- ・ 小学校の学校図書館支援ボランティアも立ち上がった。子どもたちが絵本を読むときに「One Book TOP100 リスト」から選んで読んだら読みやすくてよいかと思うので、このリストを紹介したい。
- ・ 小学校高学年対象の絵本の読み聞かせを見学されて、中学校からもおはなし会の要望を受けた。中学生には One Book は浸透していないように思われるが、広めていきたい。
- ・ 当区でも最近では、中学校からもおはなし会の要請があり、ボランティアグループで調整して行っている。
- ・ 学校図書館活性化事業で全ての大阪市立小学校では、ボランティアの協力のもと図書館開放の時間延長などが実現できている状況にある。中学校でも元気アップ地域本部で図書館活性化の取り組みを行っている。中学生にも絵本の素晴らしさを伝え、One Book 事業の宣伝も出来ればと思う。
- ・ ボランティアの活動が言語力向上を支えていると感じた。小学校でおはなし会を経験した子どもが中学校に上がっている。ずっと絵本の読み聞かせを経験してきた子どもたちである、中学校にも要請があれば是非行って欲しいと思う。
- ・ 保育所にも中学生が職業体験に来る。0・1・2歳児と触れ合う中で、自身の生き方も感じて帰られたのか、手作りおもちゃや絵本を持参し読み聞かせをしたいと言って授業が終わってから再来所される生徒もいた。絵本の持つ素晴らしさが人間のつながりの中に広がっていく。本事業の継続を希望する。
- ・ One Book 発表会での報告やピアノ伴奏つき読み聞かせの発表、運営委員会での発言など、中学生、小学生の子ども運営委員の活動は、素晴らしい、感動した。

## 閉会の挨拶（ 利用サービス担当課長 ）

本事業の継続には、効果検証が必要、継続のあり方について、今後の運営委員会でも論議してい

ただきたい。投票される絵本はバラエティに富んでいる。子どもたちは、自分が選んだ絵本が1位にならなければがっかり・・というのではない。それぞれが好きな絵本を選び、それぞれの好きな絵本が集まって膨大なタイトル数が集計されている。読書支援活動ボランティアの皆さんが読み聞かせの活動をされてきた結果が実証されたとも言えるのではないか。運営委員会は次年度も開催する。今後の事業形態をおはかりしたいと考えている。